

エロドローン出撃！女子が入浴する修学旅行の女湯の撮影に成功

「ここだ。この塀の上がパラダイスだ」

「しーっ。静かにしろって」

「そうだぞ。先生にバレたら終わりだからな」

3人の男子生徒が、旅館の端にある露天風呂の外の塀のところにいる。

この時間は、女子たちが入浴をする時間だ。高校の修学旅行では、しおりが渡されて、分単位で行動が決められていた。

この3人の男子生徒のクラスの男子は、今は、自由時間となっている。

ちょうどその時間が女子たちの入浴時間となっていたのだ。

この旅館は露天風呂なので、なんとか、女湯を盗撮できないものかと考えた。

なんとしても、同級生の女子たちの裸を撮影したい。

そこで策をめぐらした。

学年の男子の中で、1人有名なドローンをよく使う者がいた。

そいつがドローンで女湯を盗撮することになったのだ。

塀の外で耳をすます、3人の男子生徒。

うっすらと女子の声が聞こえてきた。

はっきりとは聞こえないが、明らかに若い女の声であることは確実だった。

「よし、もうそろそろいくか」

「いや、もうちょっと待とう」

ひそひそ声で男子たちが話す。

「よし、もういいんじゃない」

「そうだな」

ドローン使いの男子が、リモコンで操作を始める。

このドローンは特攻だった。

このドローンを回収することはもうあきらめている。

撮影さえできればそれでよかった。

ドローンが撮影した映像は、ドローン本体に残るのではなく、ドローン使いの男子のパソコンに自動転送されるようにプログラミングしてあった。

だから、このドローンを誰が操作していたかはわからない。

このドローン使いの男子が、ドローンをよく使っていることを知っている男子もごく少数に限られていた。

ドローンがゆっくりと上昇し、ホバリングを始める。

そのまま、上へ上がっていき、塀を簡単にのりこえた。

そして、女風呂の方向へと向かっていく。

どの方向に風呂があるかは、しっかりと確認していた。

ドローンの操作は間違いない。

手元のコントローラーに液晶モニターもついているので、映像も確認できる。